

とくがわいえやす たんじよう

徳川家康の誕生 (新城市 旧鳳来町)

おがわじよう うま そだ
緒川城で生れ育った、於大の方が岡崎城主

まつだいらひろただ
松平広忠のもとにとついだのは、天分十年(一

五四一)十一月、広忠十六歳、於大十四歳の時で

した。岡崎では、この若い二人の結婚を大いに祝

い、一日も早くお世継ぎをと期待しました。

そこで、二人は、翌年二月、峯の薬師といわ

れる鳳来寺山におこもりして、

「わたくしどもに強い男の子をお授けくださ



いますように。」

とお祈りいのしました。そして、七日七晩なのかななばんのおこもりが明けあようとしていた時とき、峯みねの薬師やくしさま様が夢枕ゆめまくらに立たたれ、

「われを守る十二神将しんしょうのうち、鉾ほこを持つ寅とらの神かみの真達羅大将しんだらたいしょうを、そなたたちの世継よつぎとして授けさずよう。」

とのお告つげがありました。

不思議ふしぎな夢ゆめから覚さめた於大おだいの方は、自分じぶんのおなかあかに赤あかちゃんの授さずかったことを知しりました。

そして、天文十一年てんぶんねん（一五四二）寅年とらとしの十二月がつ二十六日にち、寅とらの日ひ、寅とらの刻こく（現在げんざいの午前四時ごぜんじ）

ろ）にめでたく元氣げんきな男おとこの子こを出産しゅつさんしました。

竹千代たけちよ、後の徳川のち とくがわ

家康いえやすです。

その時とき、峯みねの薬師やくしで

不思議ふしぎな出来事できごとがありました

した。十二神将しんしょうぞう像ぞうのうち、

寅とらの神かみの真達羅大将しんだらたいしょうが

どこへともなく姿すがたをか

くしてしまったといふのです。

それで、人々ひとびとは、



「寅の刻に生まれたという岡崎のお世継ぎは、
峯の薬師の真達羅大将の生まれかわりにちが
いない。」

「戦乱の世をおさめ、平和を守る、立派な大将
になられるお方だ。」

と、大いに喜び合いました。

人々の期待どおり、天下を統一して、泰平の世
を築いた徳川家康は、元和二年（一六一六）四月

十七日に世を去りました。すると、不思議なこ

とに、峯の薬師で失えていた真達羅大将の像

が、こつ然として現れ、もとの十二神将の仲間

▼
鳳来寺の真達羅大将



に加わりました。

その後、三代將軍家光公は、慶安元年（一六

四八）家康公にゆかりの深い鳳来寺山に、家康公

をまつる東照宮の創建を思いたち、工事を命じ

ました。そして、三年後には立派な本殿が完成し



▲ ほうらいさんとうしょうぐう
鳳来山東照宮

指定していされています。
ました。この本殿ほんでんは、
現在げんざい、
国の重要文化財くに じゅうようぶんかざいに



▲ おがわじょうしゅみずのけ ぼだいじけんこんいん
緒川城主水野家の善提寺乾坤院